

インドネシア共和国アチェ州による姉妹都市提携の希望

2017年6月

在メダン日本国総領事館

今般、インドネシア共和国アチェ州より、日本の都道府県との姉妹都市提携を希望する旨の要望がありました。以下アチェ州の概要を紹介します。

1 アチェ州の概要

(1)基礎データ

所在地 北緯5度34分13秒 東経95度20分26秒

面積:56,770km²

人口:約509万人(2016年)

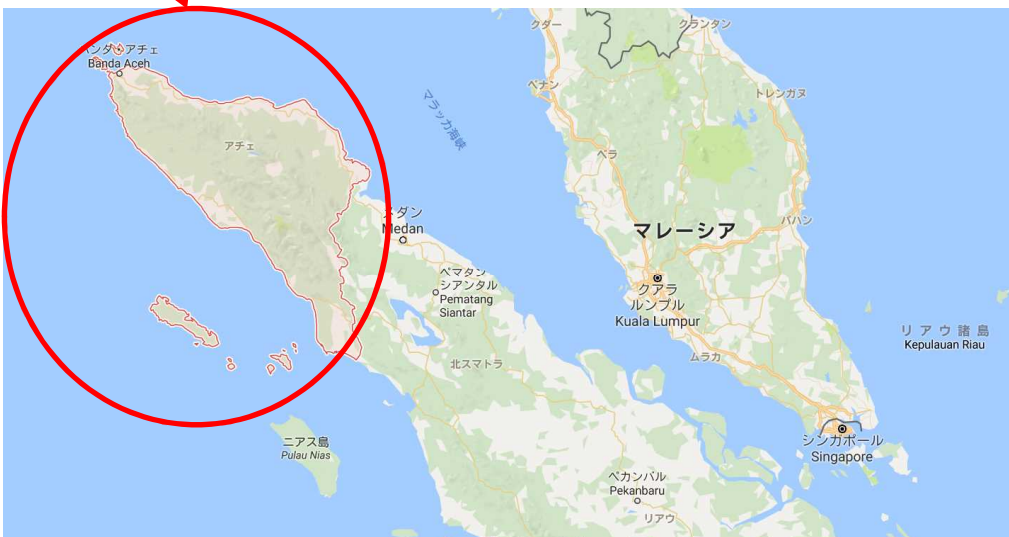
日本との時差:-2時間

公式ウェブサイト: <http://www.acehprov.go.id/index.html>

【インドネシア共和国全土】



【拡大図】



(2)アチェ州は、インドネシア共和国最西端に位置する州です。人口500万人強の州で、住民の多くはアチェ人と呼ばれるアチェ族です。農業、漁業が盛んな地域で、石油・ガスも産出されていますが、石油の産出は年々減少しており、同州は新たな成長分野の開発に取り組んでいます。また、2004年12月に発生したスマトラ沖大地震で被害を受けた地域でもあり、災害対策にも力を入れています。

【写真:アチェ伝統建築】



2 アチェ州の歴史

(1)現在のアチェ州周辺地域は、15世紀にスルタン・アリ・ムハヤット・シャーが同地にイスラム教の国、アチェ王国を統治していた頃にはじまります。1903年まで続いたアチェ王国の都はバンドル・アチェ・ダルサラム(現在のバンダ・アチェ市周辺)と呼ばれました。アチェ王国は、周辺地域の小さな王国を統一していくことで存在を強固なものとなりました。

(2)17世紀頃は、アチェ王国の隆盛が極まり、最盛期の王(スルタン)は、スルタン・イスカンドル・ムダ(現在のバンダ・アチェ空港の名前)です。当時のアチェ国内では、イスラムの教えが市民の日々の生活に強く影響を与えていたこともあり、同地はスランビ・メッカという別名が付けられました(和訳するとメッカへの玄関口という意。バンダ・アチェ発行の日刊紙の名前はスランビ)。

(3)1837年、蘭領東インドは、アチェ地域の支配を目的として、アチェ王国に対して宣戦布告しました。1874年まで続いた戦争で、最終的には蘭領東インド側が勝利しました。

(4)1942～1945年は日本統治時代。1945年8月17日、インドネシア共和国が独立、成立した際、アチェ地域はスマトラ州の一部に属しました。1948年には北スマトラ州の一部と

なり, 翌49年にはアチェ州が成立しました。

(5) 1959年には, アチェ特別州という地位になり, 他州と比べ, 州政府が宗教行政, 教育行政, 慣習に関わる条例等で大きな権限を持つようになりました。

(6) 1950年代から, アチェ地域のインドネシア共和国からの独立を目指す組織, 独立アチェ運動(GAM)の活動が激化し, 国軍との紛争状態に突入しました。長年紛争状態が続く, 外国人の立ち入りが制限されていた中, 2004年12月, スマトラ沖大地震・津波が発生し, 20万人以上の犠牲者が発生しました。大規模自然災害が発生したことから, GAMと国軍の間で停戦合意がなされ, 更に翌05年には和平合意が締結されました。日本を含めた国内外からの支援を受け, 災害復興に取り組んでいます。

【写真:州内観光スポット:イー・スー・ウム温泉】



3 アチェ州の特徴

(1) 2004年の津波被害のように, 災害の多い土地ですが, 農業資源, 漁業資源に恵まれています。州内には美しい海岸が複数あり, ダイビング/シュノーケリングスポット, 天然温泉にも恵まれています。

(2) コーヒーの産地であり, ロブスタ種のコーヒー粉末を直接水で溶かして飲むアチェコーヒーや, アラビカ種の銘柄として, ガヨ・コーヒーは世界的に有名です(ガヨはアチェ州内の地域名。同地域にはガヨ人と呼ばれるガヨ族が在住)

(3) 自然災害対策を通じて, 日本との関係が強く, 2004年のスマトラ沖地震の際は, 日本が5億ドルを支援しました。2011年の東日本大震災の際は, アチェの市民から義捐金支援があったほか, アチェの学生達による東日本大震災被災者への応援歌もありました。

【写真:市内の自然観光スポット:ブラン滝(上)とランブック海岸(下)】



4 アチェの産業

- ・第一次産業(農業, 漁業)
- ・エネルギー産業(天然ガス産出, 肥料生産等)
- ・セメント生産

【写真:アチェ伝統舞踊のサマン・ダンス】



5 姉妹都市に関するアチェ州の意向

- ・同州と共通点を有する日本の地方自治体と姉妹都市関係を結びたい意向を持っています。具体的なポイントとしては、アチェ州内で生産するシトロネラ(アロマオイル)、パチヨリ油(ハーブ油の一種)に関する協力を模索していきたいとのことです。
- ・アチェ州内の水道整備率は4割前後であることから、水道整備協力を通じた協力もありがたいとのことです。
- ・防災対策に力を入れていますが、最も頻発する災害は洪水被害であるため、治水事業を通じた協力も検討したいとしています。

【アチェ州のグルメ:アチェコーヒー(左),アチェ・ヌードル(“ミー・アチェ”,右)】



[お問い合わせ先]

◆外務省大臣官房総務課地方連携推進室

電話: 03-5501-8491

メール: gaimu-renkei@mofa.go.jp

なお、アチェ州以外の都市でも日本の自治体と姉妹都市提携を希望している都市があります。以下の姉妹都市募集情報もご覧ください。

外務省ホームページ内「グローバル外交ネット」

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/action/sf_city.html__